

第3学年 家庭科学学習指導案

1. 日 時 令和5年12月4日(月) 3校時…3年1組、4校時…3年2組

2. 単 元 名 家庭生活と地域の関わり「地域に暮らす高齢者との関わり」

3. 指導にあたって

本校は、多世代同居によって祖父母と暮らす家庭やコミュニティスクールのサポーターとして学校教育に携わる地域の高齢者との接点など日ごろから、高齢者との関わりがある生徒が多い。そこで事前アンケートで高齢者との関わりがどれくらいあるかを調査したところ、「毎日ある」46%、「週3～4日程度ある」22%、「週1回程度ある」25%と合わせると93%と大変高い結果となった。また、そのアンケートで高齢者に対するイメージをたずねると、ほとんどが肯定的な意見であったが、中には「うるさい」「頑固」「同じことを何度も聞く」など否定的な印象の回答も見られた。

今回、技術・家庭科(家庭分野)の新学習指導要領において「高齢者との関わり」という内容が新設され、中学生としてともに地域社会で助け合って生きていくために、高齢者と自然に関わることができる生活環境にある地域だからこそ、より一層その関係を築く力を育てたいと考えた。そのために高齢者の特徴を理解し、身体的な不自由をサポートする(介助)方法を知るだけでなく、どのような気持ちで接するべきかを合わせて考えさせることで、高齢者の尊厳を大切にしたい接し方や思いやりをもつことの大切さを学ばせたい。

4. 単 元 計 画

学習項目	配当時間
家庭生活と地域の関わり	全3時間
①家庭生活と地域での活動	(1時間)
②多様な人々が暮らす地域	(1時間)
③地域に暮らす高齢者との関わり	(1時間) 本時

5. ね ら い 高齢者の身体的な特徴について疑似体験を通して理解し、地域に暮らす高齢者に対して人権を尊重した関わり方を考えさせる。

6. 人権教育の内容 人間関係の活性化 3—(2)—ア

7. 展 開

学習活動	指導上の留意点	準備物・【評価】
<p>1. 高齢者（定義：65歳以上）についての印象など、自分たちの意見を共有する。</p> <p>・本時のめあてを確認する。</p>	<p>○事前アンケートをもとに、生徒が高齢者と日頃どれくらいの間わりがあるか、またどのような印象をもっているか伝える。</p> <p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい ・穏やか ・挨拶をしてくれる など <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うるさい ・同じことを何度も聞く など <p>○高齢者にも元気な人や手助けが必要な人など、様々な立場がいることを確認させる。</p>	<p>・アンケート結果（電子黒板）</p> <p>・高齢者の画像（電子黒板）</p>
<p>様々な立場の高齢者を理解し、どのように関わったらよいか考えよう。</p>		
<p>2. 疑似体験を通して、高齢者の身体的特徴を理解する。（グループワーク）</p> <p>①手先の不自由さ…手袋を二重履きにし、日常の動作をおこなう。</p> <p>②視覚の不自由さ…曇ったゴーグルを着用し、字を読み書きする。</p> <p>③聴覚の不自由さ…カット綿を耳栓にし、周りの人と会話する。</p> <p>3. 疑似体験を行ってみて、感じたことや気付いたことを発表する。</p> <p>4. これから高齢者とどう関わるか、ワークシートにまとめる。</p>	<p>○班ごとに高齢者の身体的特徴の疑似体験をさせる。それぞれ高齢者役と介助役になり、交代しながら活動を進めるよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助されたときの気持ちや介助する際に工夫したことなどをワークシートに記録させておき、あとで発表させる。 ・体験後にお互いにアドバイスをして改善を図り、もう一度やってみるよう促す。 <p>○課題をどうすれば改善できたかを学級全体で共有化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者（介助される側）の気持ちを捉えられるように助言する。 <p>○筋力や五感の衰えなどの他に、認知症など認知力の低下が起きることもあり、それに対する介助が必要になることも伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳「一冊のノート」で関連学習をする。 <p>○学びの発展として、高齢者を含む誰もが暮らしやすい社会にするために、自分たちに何ができるかという視点をもたせる。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・軍手</p> <p>・ビニル手袋</p> <p>・接着剤を表面に塗ったゴーグル</p> <p>・カット綿</p> <p>【評価】</p> <p>・行動観察</p> <p>【評価】</p> <p>・ワークシート</p>

高齢者とのかかわり

3年 組 番 ()

めあて:様々な立場の高齢者を理解し、どのようにかかわったらよいか考えよう。

●高齢者疑似体験ぎじたいけんをして、高齢者の身体的な特徴やその介助かいじょの工夫を書こう。

※介助とは・・・食事や排せつ、着脱衣、移動を手伝ったり、付き添ったりすること

① 手先

【介助の工夫】

② 目(視覚)

【介助の工夫】

③ 耳(聴覚)

【介助の工夫】

その他

【介助の工夫】

●高齢者とかかわりにおいて、大切なことは何か考えよう



【家庭科・高齢者疑似体験の感想】

- ・困っていれば助けるが、介助される気持ちを考えて接していくことが大切だと思いました。また、高齢者の人を助けるだけではなく、日頃から喋ったり、挨拶したりするだけでも心が温まるのではないかと体験を通して感じました。お互いに分からないことを教えてもらったり、教えたりして一緒に生きていくのが大切だと思います。
- ・私が高齢者の立場だったら、すべてのことを介助してもらおうと悪いなと思うだろうし、まだ自分でできるのに、と思うだろうなと感じました。私たちが介助することも大事だけど、できることは自分でやってもらうことで、自分でできるという達成感などもあるのかなと考えました。
- ・よく見ておくというのが大切だと思いました。私は普段、ほぼ毎日おじいちゃん、おばあちゃんと出会って話すことも多いので、その中で自分が気付いて助けられることをしていきたいなと思いました。
- ・高齢者のことを考えて、介助の工夫をしたいと思いました。高齢者の自分でできるようになりたいという気持ちを大切にしたいと思います。
- ・高齢者と接するときは「めんどくさい」や「いや」という気持ちではなく、自分も接していて楽しいなという気持ちで接したいです。そして、自分でしたいと思ったことはして、助けが欲しいときだけサポートするようにしたいと思いました。

【関連授業・道徳「一冊のノート」の感想】

- ・高齢者の人などは、認知症になりたくてなっているわけじゃないし、(教材の)おばあちゃんからしたら、孫が喜ぶだろうとやったことが、孫からしたらありがた迷惑だったということだと思います。認知症になって起きた出来事で気持ちのすれ違いが起きると思うので、気持ちだけでなく、そのための対処法が知りたいです。私のおばあちゃんももしなった時には、もう一度この話を読み直したいです。
- ・私も祖母に強く当たってしまったり、八つ当たりしてしまうことがあるので、これからご飯を食べている時はスマホを見るのをやめて祖母と話したり、ご飯を作ってくれていることに感謝して、その感謝を伝えたいと思います。祖母がやりたいことも見守ったり、関わったりして、祖母がいなくなる前に後悔しないようにすることが今からでもできるかなと思いました。

